

## 東京2020大会開催に向けた準備状況について

### 1 国際オリンピック委員会（IOC）等による選手選考に係る動き

- ・IOCは各国際競技連盟（IF）に対し、新たな予選方式を4月中旬までにまとめるよう通知した。
- ・IOCは予選期間を2021年6月29日まで、選手登録を7月5日までとした。
- ・IFはすでに決定している大会出場枠約11,000人の43%にあたる約5,000人について予選方式を確定することになった。
- ・世界陸上競技連盟は、2020年4月6日から11月30日まで、大会の参加標準記録やワールドランキングの対象期間に含めないことを発表した。
- ・国内での選考方式についても徐々に決まってきており、日本水泳連盟は、競泳の代表選考会について2021年4月の開催を目指すとしている。

### 2 大会組織委員会の大会運営に係る動き

- ・会場の再使用を交渉しているほか、開閉会式や聖火リレーの規模縮小など経費削減策を検討している。

### 3 大田区への影響

#### （1）大会期間中の交通混雑緩和の取組み

- ・東京都から交通混雑緩和のための工事車両等の抑制について協力要請を受け、各部局に協力を依頼していた。今年度、東京2020大会が中止となったことでこの取組みについても中止となった。来年度に向け東京都が必要な見直しを行い、改めて各自治体に依頼される。

#### （2）ホッケー競技場

- ・観客席を増やすなどの仮設工事が中断されており、再開スケジュールを調整している。
- ・大会前の施設活用の可否を東京都と大会組織委員会が検討している。

#### （3）野球・ソフトボール競技の公式練習会場

- ・来年も同様の日程で大田スタジアムを使用したいと依頼を受けている。